出エジプト記結晶の学び(二) 第 16 週
神を愛し尋ね求める者たちが、神の御言の機能を通して受ける祝福

鳥瞰	神を愛し尋ね求める者たちが、神の御言の機能を通して受ける祝福は五つあります。第一に、光が命となることです。第二に、潤され、神を吸収することです。第三に、神を吸い込むことです。第四に、神を分け前として享受することです。第五に、神の御顔の表情(countenance)と彼の御顔(face)の輝きを享受することです。	
	真理要点	経験適用
1日	1．創世記第1章と第2章から、光が命をもたらすことをどのように見ることが出来ますか？ 2．創世記第1章の中で、第一日と第四日の光にはどのような違いがありますか？	1．創世記第1章と第2章は、神が彼の回復の働きを始められる前、地全体は荒廃して暗やみでした。それは死で満ちていたことを意味します。ですから、第一段階の神の働きは、光あれと命じることでした。光が来たとき、暗やみに属する死を滅ぼし、命をもたらし始めました。ですから、命は光に続き、命は光から始まります。 2．第一日の光は具体的ではありませんでした。ですから、それは植物の命、最も低い命、知覚のない命をもたらしました。これは、わたしたちが最初に救われたとき、内側に受けた光の照らしを象徴します。第四日の光は第一日の光より強かったのです。それはさらに明確ではっきりしており、さらに具体的でした。ですから、それはさらに高い命、動物の命をもたらしました。またキリストがわたしたちの内側に「形づくられる」ことを表しています。
2日	1．わたしたちの経験から、光の中にいる時と真理に反対する時の感覚の違いはどのようなものですか？ 2．光があるのは良いことですが、光が命となるまで更に深く浸透する必要があるのは何故でしょうか？	1．神聖な光が輝くとき、わたしたちはさまざまな真理をすべて見ます。神はあなたにとって実際となり、神聖な命も実際です。さらに、神の聖、愛、恵みはすべて、あなたにとって実際です。しかしながら、わたしたちが暗やみの中にいるとき、何もわたしたちにとって実際ではありません。その反対に、あらゆるものは空虚で、むなしいのです。 2．わたしたちの状態が正しく正常であるなら、わたしたちは御言に来るとき、光の中にいるという感覚を持ちます。祈りの中での霊の訓練を通して、光はわたしたちの霊の中へと入り、命となります。魂の領域でのわたしたちの理解力の中で、御言は光ですが、御言がさらに深く、わたしたちの霊の中へと入るとき、命となります。
3日	1．コロサイ第2章7節で言われる「すでに彼の中に根ざしており…」について解説してください。 2．コロサイ第2章7節の「建造されながら…」という句について解説してください。	1．わたしたちはキリストの中に根ざしている生きた植物であることを見ます。わたしたちは彼の中に根ざしているので、何ものにも彼に置き換わらせてはなりません。わたしたちはただ生ける地としての彼の中で歩き、土壌の豊富をわたしたちの中へと吸収することによって成長すべきです。このようにして、かしらでもある土壌からの豊富は、わたしたちの中へと供給されるでしょう。その結果、からだ全体は三一の神の増し加わりによって成長します。 2．良き地として、キリストご自身は豊富で、肥沃な土壌です。わたしたちはすでにキリストの中に根ざしており、日ごとにキリストの豊富な養分をわたしたちの中へと吸収し、わたしたちを成長させる要素としなければなりません。一日中、柔らかい根は土壌としてのキリストの豊富を吸収すべきです。わたしたちはこれらの豊富を吸収すればするほど、ますますキリストによって浸透され、有機的に彼によって置き換えられます。これが成長すること、キリストの中で建造されることです。
4日	1．土壌としてのキリストの豊富を吸収しようとするなら、わたしたちはどのようにすべきでしょうか？ 2．聖書は神によって息吹かれたものですが、わたしたちはどのようにそれに対するべきですか？	1．わたしたちは、土壌としてのキリストの豊富を吸収しようとするなら、柔らかい新しい根を持つ必要があります。自分自身を古くならせるのではなく、日ごとに新鮮で更新されなさい。わたしたちの根が柔らかく新しく、キリストの豊富を吸収するなら、わたしたちは消化した豊富をもって自動的に成長するでしょう。これは日ごと時間ごとに主観的にキリストを享受し経験することです。 2．聖書はすべて神の息吹かれたものです。つまり、神ご自身を息吹出されたものが聖書です。神はご自身を息吹き出して、わたしたちが彼を吸い込むことができるようにされます。クリスチャンであることの最大の喜び、あるいは祝福は、神の息吹き出した言葉を通して神ご自身と接触し、味わうことです。
5日	1．神をわたしたちの分け前として享受することが、最高の祝福と言われているのは何故でしょうか？ 2．どのようにして神がわたしたちの分け前と成る経験をしますか？	1．第 119 篇 57 節で詩篇の作者は宣言します、「エホバはわたしの分け前です」。わたしたちは神をわたしたちの分け前として持つとき、光、命、水、そしてこれらがわたしたちにもたらすすべての益を持つだけでなく、まさしく神ご自身を持ちます。神をわたしたちの分け前として持つことはとても大きな事柄です。 2．神はわたしたちの分け前となるために、彼はまたとても実際的であり、存在し、享受でき、便利でなければなりません。多くのユダヤ人、回教徒、クリスチャンにとってさえ、神は遠く離れています。彼らにとって、神は実際的でなく、存在せず、享受できず、便利ではありません。彼らは経験において、神を彼らの分け前として持っていないのです。
6日	1．主の臨在を享受することと、主の御顔の輝きを享受することは、どのような違いがありますか？ 2．イスラエルの民とモーセの経験はどれほど違いますか？	1．主の御顔の輝きを享受することは、単に彼の臨在を経験することより豊富でさらに満ち足りています。あなたは、御言を通して主と接触することにおいて忠信であるなら、また彼の御顔の表情の輝きを経験します。あなたの願いは、この喜ばしく、楽しい輝きの下にとどまることでしょう。そのような経験と享受は、わたしたちの神が真実で、存在し、実際的で、便利であることを証明します。 2．イスラエルの子たちがシナイ山のふもとで恐れおののいていたとき、モーセは山頂にいて、主の御顔の表情の輝きを享受していました。わたしたちは山頂にいて神の御顔の輝きの下にあるべきです。モーセが神と共に長くとどまっていた間に、神が彼に語ることを通して、彼は完全に神に注入され、彼に浸透されました。その結果、モーセの顔は輝きました。
まとめ	神を得ることは宇宙で最大の祝福です。どのようにして神を得るのでしょうか？　光である神に近づくことで得ます、そしてまた命がもたらされます。わたしたちは、再生のための第一日目の光を必要とします。また命の成長と造り変えのための第四日目の光も必要とします。信者は、キリストの中に根ざしている生きた植物です。主と接触し、主の言を祈り読みすることにより神を吸収し、古さを取り除かれ、日ごとに新鮮で、復興され、更新されるべきです。聖書は神の息吹き出されたものです。わたしたちは神の言により神を吸い込みます。また個人的で親密な方法で彼の御顔の表情の助けを愛し尋ね求め、彼の御顔の輝きを求めます。	